軍事外交特集：中露の相互信頼関係の強化

漢和防務評論 20180208(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

ロシアと西側の対立に北朝鮮問題が加わり、中露が急接近しつつあります。米軍の北朝鮮への軍事圧力に対応して、ロシア海軍は、日本海とオホーツク海で中国海軍と共同軍事演習を行う計画があるようです。米国に見せつけるためですが、漢和は、日本にも見せつける、としています。オリンピック後、朝鮮半島の情勢はどうか？オリンピックの獲得メダル数よりも、その後の情勢に気がもめます。

平可夫

最近 1 年間の中露の軍事協力を見ると、両軍関係は、歴史上最も信頼し合う関係に至っている。

”信頼せざるを得ない” というのが、モスクワ取材して得た最近の印象である。長年に渡って、中露間の軍事協力及び安全保障戦略は、相互に大きな猜疑心があった。しかしこの猜疑心は、モスクワから見ると、この一、二年で大幅に低下している。なぜならロシアと西側の関係が極端に冷却化したからである。この他、中露双方の政治、外交の共同歩調が多かったからである。

2016 年以降、ロシアと中国は、外交上、利益が共通することが多かった。第一に、朝鮮半島の核問題であり、弾道ミサイル問題である。双方の見解は極めて接近しており、すなわち”双方とも停戦せよ”である。この提案は現実的ではないが、モスクワと北京は、問題の根本原因は、米朝の緊張関係にあり、米国が責任を負うべきだ、と考えている。

中露に共通する 2 番目の大きな脅威は、日本本土に配備された SM-3 或いは THAAD システムであり、モスクワ、北京ともに良い気持ちがしていない。ポスト冷戦時代は、モスクワと西側の政治的摩擦は、主として NATO の東進拡大を含め、西部に限定されていた。しかし、今回東京は、北京とモスクワ共同の戦略的対象国となった。

対弾道ミサイル問題では、双方の共同利益が相当接近しており、いずれも米国の SM-3 及び THAAD の配備拡大に反対している。

ロシア軍事工業界、軍隊、外交領域内部では、過去に比較してより多くの人々が中国に友好的な感情を持っている。この点は、シンガポールのシャングリラ会議を見ただけでも明らかである。主要な西側国家の国防部長、外交部長は、すべて直接的、間接的に中国の一連の外交姿勢を非難し、ロシアだけが長年中国を批判しなかった。今年、ロシアの国防副部長 FOMIN 中將は、大会の席で、西側学者に対し中国のマイナス面に関して質問した。FOMIN 中將は次のように述べた：我々は、中国を良い国家だと思っている、と。その後、中国側の代表団長は感謝の言葉を述べた。

20年前、冷戦の影響がまだ残っていたためか、ロシア軍及び外交部の人は、正式の場では、中国に友好的な態度を示したあと、内緒話においては中国に対する猜疑心を隠さなかった。しかしこの種の状況は最近少なくなっている。ロシア外交部官員は本誌記者に対し：“我々は、友好的かつ強大な隣国は、ロシアの利益になる”と考える、と述べた。

中露が昨年行った一連の軍事演習から、双方が急速に接近しつつあり、相互信頼の中、中露が同盟国ではないものの、双方の政治、外交領域でますます共同歩調を採りつつあることが分かる。

第一に、海軍の演習区域の大幅な拡大である。すでにアジア地区に限定されず、6月には、中国海軍艦隊が初めてバルト海でロシア軍と” 聯合演習 2017 第一段階” を行った。052 ミサイル駆逐艦がこの演習に参加した。このことは中国の海上戦力が初めて NATO の前沿地帯に展開したことに等しく、バルト海国家とポーランドは当然警戒した。もし KDR の判断が正しければ、演習場所の選定は大部分ロシアの主張を入れたものであろう。

演習中、173号” 長沙” 052D は、動力を喪失し臨時に帰国したと報じられた。第二段階の 9 月の演習は、さらに重要である。演習地点は、日本海とオホーツク海である。中国海軍は、051C ミサイル駆逐艦と 054A ミサイル護衛艦を 1 艘参加させる。今回の演習では、潜水艦救難演習を行った。過去数年来、中国海軍は、ひたすらロシア海軍にこの種演習を行うことを要求し、相互信頼のレベルを高めたい、としていた。中国及びロシア海軍の救難艇は、ロシアの潜水艦と連携し水面下でドッキングする。不思議なことに中国の LR-7 型潜水艦救難艇は英国製で 2009 年に輸入された。禁輸リストには入ってなかったらしい。

演習地点を見れば説明の必要がない。ロシアと中国は、最近のある時期以降、日本の対弾道ミサイル問題に対する姿勢に憂慮している。次に、演習時期は、北朝鮮問題が微妙な時期である。

北朝鮮の核兵器、弾道ミサイル問題に対して、中露双方の軍の戦略学者は、国際会議の場で非公式に次のように述べている：米国の一方的な介入に反対する、と。中国自身は、直接巻き込まれるたくないと思っている。したがってこの問題は、簡単にはゆかない。北朝鮮崩壊後の核兵器の拡散問題、再建の問題、誰が資金を出すか？ロシアは従来から単独介入によって北朝鮮の核開発を阻止しようとは考えていない。ソ連時代もそうであった。

モスクワと北京は、共同して北朝鮮の核武装問題に干渉しようとは考えていないのか？

これに対して、双方の戦略学者は次のように強調した：どうあろうと、いかなる方式であらうと、米国が一方的に北朝鮮問題に武力干渉することは許せない、と。

以上